キャリア教育新聞

No.1

2025年2月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

社会人約六十名が授業に参画
一対一の対話・いきはたトーク

令和六年十二月九日、丘中学校で「いきはたトーク」が開催された。対象は、進路選択を翌年に控えた二年生一四五名。親や先生などの「タテの関係」、同級生などの「ヨコの関係」ではない、「ナナメの関係」である人生の先輩（地域の社会人・大学生・高校生）と中学生が一対一で対話をするプログラム。生徒は当日を迎えるまでに、職場体験等で働く意義を考えたり、今までの人生を振り返ったりするなどの事前学習を行い、学びを深めてきた。先輩方は傾聴について学び、自身の人生を振り返る等、二時間にわたる事前研修を受けて臨んだ。

「人生で一度はあってほしい すごくいい機会だった」

生徒の声一例

今悩んでいることや考えていることを、終始笑顔で聞いてくれて嬉しかったし、学びも多かった。先輩と話して、どんなときもポジティブに乗り越えていきたいと思った。

生徒の声一例

一言で言うと人生で一度はあって欲しいすごくいい機会だった。自分で考えてもどうすればいいのか分からなかった答えが見つかる瞬間があった。

丘中学校二学年主任久保先生

普段悩みを抱えていてなかなか言えなかった生徒が自分の悩みを話せたりと、良い機会になった。参加された先輩方がしっかりと話を聴いてくださったので、一対一でも生徒が安心して話せていた。生徒のいい笑顔が見れた。

捨てたもんじゃない塩尻

いきはたトークには六十名もの協力者が市内から集まった。塩尻市商工課キャリア教育コーディネーターの宮川さんは、五月からキャリア教育参事業所開拓に奔走しており、その中から業種に偏りがないよう配慮しながら依頼をかけた。その殆どの事業所で快諾をもらうことができ、目標数を程なくして達成することができたという。集まった人数に「捨てたもんじゃない塩尻」をいうお声もいただいた。

協力者の事後アンケートでは、九割近くが参加に満足しており、自身の成長にもつながったと回答。生徒のみならず、働く大人にも役立つキャリア教育プログラムとなった。

共創共学プラットフォーム

塩尻市では、令和六年度を始期とする「第六次塩尻市総合計画」及び「第二次塩尻市教育振興基本計画」に基づき、学校と地域・産業界・行政など多様な主体が連携をしながらキャリア教育を推進している。その中で、本年度より「共創共学プラットフォーム」と称した仕組みを新たに構築した。主な役割は①各学校のキャリア教育プログラムに対する支援②キャリア教育関係団体間の連携促進の二つ。学校からの相談に対し、授業設計段階から伴走支援をしたり、新たな連携先を紹介したりしている。また、月に一度、それぞれの担当者（メンバー）が集まり、共通理解を図ったり、各学校の支援状況を共有したりする定例会議を開催している。（メンバーは次号以降で紹介予定）

この体制により今まで実施したかったけれど、学校や教職員だけではできなかったキャリア教育も実現できている。

コラム：キャリア教育に関わって

そもそもキャリア教育とは何か。文科省では「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義している。また、キャリア発達とは「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」と定義されていることから、キャリア教育は子どもの自己実現・自己確立を目指した教育ともいえる。

今号をきっかけに、VUCAと言われる時代の中で生きる私たち社会人も次の問いについて再考してみてはどうだろうか。

①私は何者なのか　②私のいきがいは何か
③私の働きがいは何か